

みおすじ



第7号
平成10年11月15日
発行
愛知県立三谷水産
高等学校同窓会



創立六十周年 記念事業に向けて

会長 小田 喜代春

みおすじ発刊にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。日本も先の見えない経済状況の昨今ですが会員諸兄には職場・地域にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

会長就任以来五年目を迎えることができましたのも、ひとえに会員諸兄の厚いご指導、ご鞭撻のおかげと心よりお礼申し上げます。

母校は、平成十二年に学校創立六十周年を迎えます。

この周年記念行事の計画を協議する学校、PTAと三者一体となった実行委員会の準備会を発足させました。内容については、皆様方のご意見を取り入れ今後検討してまいりたいと考えております。

現在、次のような行事を考えております。

第一に、太平洋フェリーをチャーターして、在校生を招待し同窓会会員と共に伊勢湾体験航海を実施する。

第二に、カッターレース大会協賛です。

これは、関東東海地区カッターレース大会が、全国水産・海洋高校カッターレース大会に昇格し、実施されることとなりました。「海の甲子園」と位置づけができ、今後永く開催できるようと考えております。

このレースは、前年の平成十一年から、毎年「海の記念日」の七月二十日に実施します。

第一回大会から数年間は、母校を主管校としていきます。

この大会を、創立六十周年記念事業としてまいりたいと考えております。

第三に、会員名簿の発行も考

えております。

会員の皆様には、来年度から協賛につきましましてお願いをすることとなります。ご理解をいただきましてご協力をお願いいたします。

さて、本年度の総会ですが、平成十一年一月二日午前十一時からホテル竹島で開催いたします。卒業二十五年目の総会役員が、我々の総会を大成功させようと大きな意気込みでがんばっております。

当日は、懐かしい恩師の先生方も多くご招待する予定ですので、多くの会員の皆様方のご参加をいただけますようお願いいたします。

母校は、新校長をお迎えして二年目、先生のご指導の下各方面で大きな成果をあげ、学校の活性化の槌音が大きく鳴り響いております。いよいよ六十周年を迎えるにふさわしい学校へと進展を続けております。

皆様方から新たなご意見をいただきながら、会員諸兄に喜んで参加していただける総会、六十周年記念行事と計画してまいります。

最後に、会員諸兄のますますのご活躍を祈念申し上げますと共に、本会へのご指導と今後一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



水産・海洋系 教育の活性化

校長 市川 優

同窓会の皆様には、益々ご健勝にて各方面でご活躍のこととお喜び申し上げます。

また、日頃は本校に対してご支援を賜り深く感謝申し上げます。

さて、大きく変革する時代のうねりの下で、漁業や水産業を取り巻く状況も大変厳しい状況下にあります。

我が国は、四面を海に囲まれ国土の11.9倍の経済水域を持ち、この海域は世界有数の漁場となっております。

漁業技術は世界一を誇り、世界第一の水産物需要国でもあります。全世界水産物輸送量の40%を日本一国が消費し、国内消費水産物の50%を外国からの輸入品に依存しています。

昔から我が国は、優れた海洋文化と魚食文化を有する海洋国家でありました。このことから、食料としての水産資源の生産・加工・流通文化を担う人材の育成・海洋環境を考え資源の保護・管理・開発を担う人材の育成、海洋文化や魚食文化の継承と創造を担う人材の育成、いわゆる「海船魚」を媒体とした水産教育は、二十一世紀に生きる若者に伝うべき重要な使命を持った教育機関であります。さらには、これからの新しい教育に求められる「心の教育」「生きる力」「ゆとり教育」を考えるとき、体験的で実践的な学習活動が中心をなす水産・海洋教育は最適で、魅力的な教育機関が数多く存在する学校制度であります。

これらのことから、水産・海洋系高校が活力と魅力ある学校となることが重要であり、このことが、次代の水産業を担う若者と後継者の育成につながるものと考えられます。海洋に夢を抱き、マリンスポーツやフィッシングを愛する子供達は多くいます。しかし、中学生の進路決定の段階で三K職種イメージや、水産業界は斜陽産業であるという誤解、さらには高学歴志向が重なり、全国的には水産・海洋系高校は難しい状況にあります。現状を嘆き、座して流れに沿って

いたのでは何も解決の糸口は見つかりません。三谷水産高等学校は、全国の水産・海洋系高校の中核を担う重要な立場にあると考えられます。生き生きとした活力と動きある水産高校を求めて本校では、水産・海洋系高校の重要性和素晴らしさを広く一般に理解を得るために、来年度は次の行事や催し物を実施し、学校の活性化を図りたいと考えています。

※第一回全国水産・海洋系高校カッターレース大会を海の甲子園とし、この大会を固定的に蒲郡港で開催し、水産・海洋系高校の心意気を全国にアピールする。

※従来からのスキー修学旅行を

変革の時代にわたって

昭和三十四年 漁業科卒 丹羽 佑三

同窓会員の皆様におかれましては、ますますご健勝で各方面にご活躍のこととお喜び申し上げます。

この度、尾崎智先生が突然来社され「みおすじ」に何か寄稿して欲しいとの依頼され一瞬とま

中止して、豪華客船と航空機を利用した、北海道への洋上研修旅行に変え、全学科の生徒に船上体験の機会を設け、海と船の素晴らしさを体験させる。

※老朽化の著しい「あおしお」を新しいタイプのアルミ製高速船に更新(平成十一年三月三十一日竣工予定)し、潜水実習も可能な時代のニーズに答えられる学習内容とする。

いずれにしても、県内唯一の水産高校の存在意義を主張しつつ、一層の充実発展を期して、職員一同努力を重ねて行く所存です。何卒、同窓会員の皆様方のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

もらっており、お引き受けすることとしました。

さて、我が国経済は、バブルが弾け大不況に陥り金融界は、じめ各分野での構造革命が厳しく求められております。

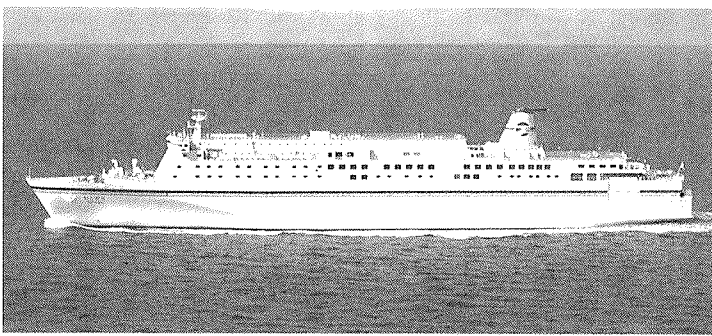
私どものフェリー業界も、第一次・第二次オイルショックを乗り越え、最近やっと日本の物流の一翼を担う産業として認知されたところでありますが、当業界も規制緩和政策により、二〇〇一年には受給調整規制の廃止並びに運賃の自由化が決定されました。

考えてみれば、当業界は認可事業であり、全くの規制に保護された事業であったわけで、今後は航空、陸運及び海運を問わず運賃は、お客様が決める時代が変わってきます。

これからの変革時代に対応していくには、既成観念にとらわれず新しい発想とひらめきを大事に、勇気をもって前向きに進むことが肝要と思います。

海運及び漁業の歴史は、世界との自由競争、二〇〇海里問題、産業構造の変化及び技術革新等々、船員にとってはまさに合理化の歴史と言っても過言ではない。

我社には、現在二十一名のOBと二名のOGが在籍しておりますが、特にOBの大多数は、マグロ船、捕鯨船、トロール船、タンカー及び貨物船等の出身者であります。それぞれが時代の変革に対応し、今では、船長、機関長及び本社部・課長等多数が、会社の重要ポストで頑張っております。



この平成の大不況は、まだまだ続くと思いますが、我が社のOBも来るべき新時代に向け、

不透明な社会情勢の中、政府のモータリシユフト政策に対し、色々模索しながら前向きに一步一步対応しておりますので、各分野で活躍の同窓会員の皆様におかれましては、更なるご健闘をお祈り申し上げます。

太平洋フェリー株式会社
運航本部
取締役運航本部長

人工増殖成功

淡水魚、ウシモツゴ(岡崎産)の人工増殖に成功。

六月七日朝日新聞に紹介され、更に九月、飼育管理する生徒の姿が放映されました。

また、美しい貝のキーホルダーを作製し、体験入学の中学生に配布したり、淡水魚の野外調査に加え、浜名湖での暖海系の魚類もはじめております。水高祭・愛知県産業教育フェアに備えて水槽管理・生物採集・貝の標本作り等に熱中して活動しております。

(増殖部)

我が母校

昭和四十八年 機関科卒 小 濱 豊

高校進学を考えていた時、何か技術を身につけたい。

車が好きなので、自動車整備士になろうか。

しかし、在り来たりである。

そんなことを考えていたとき、

本校を知り入学した。

当初は、漠然と海事関係の仕事をしたかと思つて入学したが、最終的に自分の性格に適している船舶機関士になるうと思つた。

現在、ロシア船ナホトカ号油流出事故の直撃を受け、油防除の洗礼を受けた、舞鶴海上保安部の所属巡視船の機関部で勤務している。

当庁の業務は多種にわたるが、大多数は現場第一線である巡視船艇乗組みで、乗組員は、航海科等の各専門職に分かれるが、皆、司法警察職員であり、事件等あれば事件処理に当たる。

これらの経験を通じて一言、漁師さんは殆ど高齢者であり若手が漁船に乗りたがらないという。

子供は漁師にならないので

自分一代で漁師をやめるとの話もよく聞く。

密漁で検挙すると、船長は自分の親父位の年配者である。

罪は悔いているし、正直に供述しているの、こちらも相応の対応をする。

後でその対応について、当人から感謝されたこともあった。

しかし、「密漁しなければ生計が立たない」と供述する者は多い。

それが、単なる言い訳でなく、本当なら問題である。

ズワイ蟹が解禁になり、その二日後、自動操舵のまま、居眠り航行して、他船と衝突した5名乗組みの漁船があった。

乗組み員は若い者で50歳、二晩続けての操業であることが分つた。

かに漁船は、解禁の僅かな期間に、一年分を稼ぐという。

天候次第なので、無理を承知で操業していたことは分かるが、死者が出ていれば大変である。

この件は物損だけで済んだ。

いずれも、現場での生の声であり、複雑な心境になる。固い話になりましたが「安全

第三回水高ヨット

八月三十日、蒲郡海陽ヨットハーバーで、二十三名のOBが集まり「第三回水高OB会ヨットレース」を開催。

当日は台風四号が南海上にあり、荒天の心配をしたが、レース終了まで雨も強風もなく、ますますの天候であった。

レースは、スナイプ級一〇艇を海陽ヨットハーバーよりチャーターして行つた。

大部分の参加者が三回目なので、艦装もはやくでき、ハーバより出艇も上手になりました。

第一レースは、一〇時三〇分にスタートし、一四時三〇分に最終第四レースを終了した。

第一レースは微風にて、スタート時刻を一〇分遅らせるなど、手間取つた。

第二レースからは風にも恵まれ、ただヨットを走らせるだけでなく、往年の勘

は自分で守るのが鉄則であり、これを「モットー」として、安全な海にすべく、頑張っています。

OB会ヨットレース

を取り戻し、他艇の風を取るなどして、面白いレース運びとなつた。

優勝は、四レースともコンスタントな走りをした「大塚正美」

藤田昇組」が優勝。

表彰式・親睦会は、場所を変えて四時より行い、レース結果や昔話でおおいに盛り上がった。

また、親睦会には水高OBで蒲郡市議員の鎌田篤司さんがかけつけて、盛会を祝していただいた。

第四レースは、来年八月第四日曜日に開催を決定。次回レースでの再会を約束して午後七時に散会した。



「結んで開いて」

佐々木 貫 衛

人は自分の将来について思いを馳せるのは幾つ頃であるのか。小学入学前、かまどの前で祖母に「大きくなったら何になる」と話しかけられたのが始めて。終戦になり、日本が多くの難問をかかえて生活していた当時、小学四年今までの教科書を墨で塗りつぶし、又、タプロイド版の印刷物を銕を使っての教科書づくり。確かその頃である。将来は「学校の先生になろう」と考えた。それ以来、唯ひたすらに自分なりの考えの中で走ってきたが、気が付けば「ゴール。定年」という時が来た。三十八年間は長くて、短い日々。最終地点は三谷水産高校。十三年前、困りました。経験のない五学科を有する学校。「うちは五つの会社が集まっている」と思っ下さいとは当時の管理職のことば。五つの固りがごつごつと(固りとは個性であったのだが)単独学科しか経験のない者にとつては、とまどい、躊躇の連続...

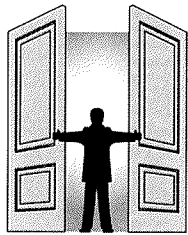
知らない土地では話を聞いて、

相手の立場を理解すること、相手をたてるのが先ずは最初であろうと。雰囲気慣れることに努めて来た。

長年なじんでいる人達にはそれなりに理解されているでしょうが、新人にとつては、とても閉鎖的な職場と感ぜられる。もつと開かれた職場を目指すことが大事ではないだろうか。今、学校はどの方向に進もうとしているのか。生徒に何を育てようとしているのか。その為に、今自分は何をするのか、これらの縦横の糸が理解され行動できる職場。そんな学校像を望んできたが...

専門性は合理的、科学的に優れた方向であると思う。より発展するためにも、重視すべきであるが、然し、独り歩きはいけない。『結んで開いて』の考え、広い手のひらから五つの方向に指が伸びている。個性(専門性)ある指を折り曲げて拳をつくる。原点に帰る。それぞれの個性を見つめ合い、確かめあって、新しく伸びていく。結んで開く柔

軟さと掌に集まる指先が、今何が必要かを掌から感じとれるように研鑽していきるともつと発展した活力ある学校づくりが出来たのではなからうか。自ら選んだ仕事を全う出来たことは開りの多くの方々のご指導と感謝しています。いろいろあったが接した生徒も将来を持った楽しい人が多かつた。在職中、何も出来ませんでした。有形無形に影響し合い、教えられたことを大切に、残された人生、教師エゴが出来よう素直に感謝し幅広くお付合い出来るよう頑張りたい。



社会でご活躍の同窓の方々直接には理解不十分でありましたが、貴会が増々発展されと共に、母校三谷水産高校の為に、厳しく、温いご指導を続けて下さることをお祈りいたします。今少し、置かれてある社会になじむのに時間が必要のようです。皆様もお達者で。

三谷水産高同窓会

関西支部発足

一、役員

昨年末より準備を進めて来ました。関西支部結成について、平成十年三月二十二日(日曜日)二十八名の出席者を迎えました。目出度く発足を催しました。会員数九三名、昔話に花が咲き、楽しい一刻を過ごし最後には全員で校歌の合唱、大合唱となりました。今後は年一回の支部会合を予定しております。

- 石川 征雄 昭三三年製卒
- 金田日出男 昭三三年製卒
- 都築 勝彦 昭三三年漁卒
- 夏目 昭夫 昭三三年製卒
- 宮川 卓雄 昭三六年製卒
- 以上

今後、会運営に關し助言ご指導の程お願い申し上げます。役員・発起人は左記のとおりです。

- 奥村 昌俊 昭二七年製卒
- 小林 善次 昭三一年製卒
- 宮川 卓雄 昭三六年製卒



遠洋航海実習

愛知丸船長 水野雄 二

同窓会の皆様には、益々のご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

私は、子供のころから海が好きで、何の迷いもなく、昭和五十年の春、三谷水産高校に入学しました。この時、船乗りという職業への道を目指し、歩んで行くことを決めたのです。本科卒業後、初代晴和丸の乗組員であった叔父の勧めもあり専攻科に進み、昭和五十五年、終了とともに初代愛知丸の船長に任命され、遠洋・沿岸航海実習をおこなっています。

遠洋航海実習ですが、現在蒲郡竹島埠頭にて出港式を行い、全校生徒・教職員・父兄や友人の盛大なお見送りを受けます。本航海は一路東航してハワイ沖南方海域へ、マグロ漁業実習を実施し、帰途ホノルルに寄港し社会見学・補給を行い、焼津港に帰着の予定であります。「盛大なるお見送りありがとうございませう。」答礼し、船尾から五色のテープをなびかせいざ出港。乗組員一同とともに、

この一航海を是非とも無事に果たし、航海成就の目的のために努力しようと心に刻むものです。いよいよ航海の始まりです。抜錨長三声、テープの尾を曳き、総ての未練を絶ち切り、船は滑るように港外に出ます。蒲郡港から遠ざかり、伊良湖岬を廻る頃、出港の慌ただしさから冷静さを取り戻し大海原の真つ只中に実習の目的達成の決意を新たに燃やすのです。

一方、生徒にとつては苦しい船酔いと戦いが始まります。しかし当直の生徒は、ビニール袋を片手にとめどないむかつきとの戦いにも負けることなく頑張ります。この不屈の姿勢に接しては、今時の高校生はと軽々しく言えませぬ。船酔いという試練の場で、生まれて初めて真剣に、体で考え覚えていくということを経験し、苦しさを乗り越えてこそ生きる力に身につけるものだと思えます。一週間も過つと皆元気になり、食欲旺盛、活気に満ちた楽しい船内生活の

雰囲気になつてきます。

やがて漁場到着、マグロはえ縄漁業実習(操業)の開始。厳しい船内生活に私的な時間は減り、海の状態に関係無く厳しく、激しい実習が連日続きます。この苦しさに耐え、やり抜く精神力と肉体訓練が生徒には、鍛練になります。大型のマグロ・カジキを釣り上げる、「血沸き肉踊る」勇壮な大スベクタクルは貴重な体験であり、漁船でなくては味わう事ができません。

操業も終り「今一番思うことは」と生徒に聞くと「両親の有り難み、とくに母親の有り難さを感じる」と、どの航海においても同じ様な答えが返ってきます。日焼けした顔、一段と輝きを増した目、徹底した乗船実習をこなし、満ち足りた態度は、見違える程逞しい海の男に成長してくれています。遠洋航海実習の印象は、鮮明で、強烈で、いつまでも忘れられない人生の宝となることでしょう。

大海の父 我が母校

昭和四十八年 漁業科卒 柴田弘巳

今年で卒業二十五を迎えました。そして「同窓会総会準備会」の一員に指名された私たち18名は、二十数年振りの再会でした。懐かしい学生当時の思い出話に花が咲きました。

入学時、他校と異つた制服・制帽の姿を「名鉄蒲郡駅の駅長さん」から、格好いいよといわれ照れくさかつたこと。電車に乗る位置のこと、先輩へのあいさつ、声出し、挙手の敬礼等、大衆の面前であれ所かまわずピシシとしこられました。これはえらい学校に入ってしまったと悩みもしました。

しかし、日が経つにつれ、先輩方の態度も軟らかくなりクラブ活動、水高祭、体育祭思いでを一杯つくる事ができました。更に一生忘れれることのない、遠洋航海のこと等、又一段と話しがにぎあいます。おかげで今日に至つてもなお付き合いを深められる先輩、後輩、同級生等層の厚さにも感謝しております。

同窓生の皆さん、総会は、平成十一年一月二日「ホテル竹島」です。恩師、先輩を囲み、母校三谷水産高校を思い出し乾杯しようではありませんか。是非総会にご参加下さい。

柔道部

○第52回総体東三河予選 4月29日 国府×三谷水0-5

○東三河高校体重別柔道大会 8月2日 100kg級 第三位 孟紀

○全三河高校体重別柔道大会 9月23日 二回戦進出二名 三回戦進出一名

以上が本年度の柔道部公式試合の結果である。昨年度は部員5名(二年一名・一年四名)で活動し、本年度は新入部員10名を加えての活動である。「初心者が多ほとんどであるが、「日々努力」の言葉を胸に団体戦県大会出場を目指して頑張っている。

